

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域の第一線で頼りにされ、愛され、そして地域を支えていく「地域の星」となる人材を育成する。
教科指導および進路指導の強化、さらに部活動や学校行事を通して生徒の進路選択肢を増やし、将来幅広い分野で活躍できる人材を育成する。
自らを律し、他人に思いやりを持ち、何事にも誠実に取り組む態度を育成する。
共生推進教室の設置により、ノーマライゼーションを推進できる人材を育成する。
国際交流活動を通して、多様性を享受する能力を育成する。
地域連携をさらに推進し、地域とともに成長し信頼される学校となる。

2 中期的目標

1. 学力の向上

- (1) 個々の生徒に応じた授業を展開し、授業満足度を増大させる。生徒の学習状況に応じ「わかりやすく楽しい授業」から「難しいが進路実現に役立つ授業」まで幅広い質の授業を展開
- (2) ICT 機器の活用、研究授業等により教員の授業改革を進め、学力の3要素（知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）の育成を図る。
- (3) 学力生活実態調査を活用し、3年間を見通した学力および学習習慣の育成を図る。

学校教育自己診断：「授業内容は難しいが、進路実現に役立つ」への生徒の肯定的回答 75%以上
学校教育自己診断：「教え方に様々な工夫をしている先生方が多い」への生徒の肯定的回答 85%以上を維持
学力生活実態調査において、3年間学力到達レベルB 3以上を維持

2. 自主的な活動の推進

- (1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化、国際交流活動の推進
- (2) ボランティアや地域と連携した事業への積極的な参画
部活動への参加率 70%以上を維持、活動実績の向上
学校教育自己診断：「国際交流、他校または地域との交流活動に参加する機会が多い」への生徒の肯定的回答30%以上

3. 安全で安心な魅力ある学校づくり

- (1) 「高校生活支援カード」や「安心・安全アンケート」等により生徒情報を収集し、教育相談を積極的に行う。
- (2) 規範意識、人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちをより一層涵養する。
- (3) 地元警察と連携を図り、自転車事故・盗難予防のための計画的で継続的な指導を行う。
学校教育自己診断：「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」への生徒の肯定的回答 65%以上
学校教育自己診断：「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」への生徒の肯定的回答 70%以上を維持

4. 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導

- (1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有効に連携させ、「キャリア教育」、「人権教育」および「志学」を包括的に展開する。
- (2) 自らの進路目標達成に向け、主体的に学習状況を把握し進路目標までのマイルストーンを描きながらアプローチできる進路指導を行う。
- (3) 社会の情報化・高齢化・グローバル化に対応し、多様性を身に付け主体的に生きていくことの出来る力を育成する。
- (4) 「共生推進教室」においては、一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させることにより、共生生徒全員の就職をめざす。
- (5) 進学実績の向上を強力に進める。
共生推進教室の卒業時の就職率 100%
英語運用能力テストで CEFR A 2 レベル以上相当資格取得者 40 名以上在籍
学校教育自己診断：「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会が多い」の生徒の肯定的回答 40%以上
2020 年度卒業生まで、現浪のべ合格数で、国公立大学および難関私大（関関同立）30 人以上、中堅私大（産近甲龍）100 人以上をめざす

5. 広報活動の充実

- (1) 地元中学校との連携、および広報紙・学校説明会をより一層充実させる。
- (2) インターネットを活用し、本校の教育活動の積極的な発信を図る。
学校教育自己診断：「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」の保護者の肯定的回答 85%以上
中学 3 年生対象第 1 回進路希望調査において希望倍率 2.0 以上

6. 業務の効率化・整理による職員の時間外勤務の縮減

- (1) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」を実効化するとともに最終退庁時刻の励行を進める。
- (2) 安全衛生委員会等において校内業務の効率化・整理を検討する。
前年度より職員の月平均時間外勤務時間数を縮小する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>すべての項目において、昨年のアンケートの肯定的回答を上回る結果となった。特に教員の授業改善研修の成果として生徒の授業への評価が大幅に向上したのに加え、「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会が多い」という回答も 6.6% 伸びたことは教員から生徒への積極的な関わりによる結果だと分析している。 今後も、授業改善、生徒との人間関係づくり、地域連携を深め本校の教育力の向上を図る。</p> <p>【学習指導等】 9 割の生徒が宿題や課題提出、テスト勉強など学習に積極的に取り組んでいる。 8 割近い生徒が進路実現に向け、難しい授業内容にも挑戦して取り組んでいる。 9 割以上の生徒が、多くの教員が授業内容を工夫していると評価している。</p> <p>【生徒指導等】 7 割以上の生徒が、本校の生徒指導の方針に納得している。 8 割以上の生徒が、命の大切さや社会のルールを学べていると感じている。 8 割以上の生徒が、いじめに対しても真剣に対応してくれていると評価している。</p> <p>【進路指導】 8.5 割の生徒が、進路について考えたり情報を得たりする機会があると評価している。 8 割近い生徒が、家庭で進路について話をしている。</p> <p>【特別活動】 9 割以上の生徒が、学校行事を楽しんでいると回答している。 国際交流や地域交流へ参加する機会があると回答した生徒が 4.3% 増えた。</p>	<p>【第 1 回 (6 / 13)】 ・学力の 3 要素の育成について、学校全体で取り組んでほしい。 ・学力が低下させない取り組みも、継続してほしい。 ・学習合宿や講習について、参加者を増やすような啓蒙活動に力を入れてほしい。 ・どんな仕事をしたいのかわからない生徒が多いようなので、キャリア教育にさらに力を入れてほしい。 ・遅刻数を減らすために、家庭との連携を強めてほしい。 ・SNS へのかかわり方への指導を続けてほしい。</p> <p>【第 2 回 (10 / 16)】 ・部活動が十分に活動できるように、支援してあげてほしい。 ・校長より、校内の市民病院側の空スペースを有効利用するため、隣が市民病院であり大災害の際には本校が多くの傷病者の受け入れ先になる可能性が高いことから、地元市の予算等で空きスペースにマンホールトイレを設置要請できないか委員の意見を聴取した。もし、設置が可能なら空スペースを舗装することができ、生徒の運動スペースとしても活用できる。</p> <p>【第 3 回 (1 / 30)】 ・成績の上位層の生徒の学力を低下させないことが課題だと思うので、生徒へのアンケートで「宿題がやさしすぎる」という質問項目を設けてはどうか。 ・授業アンケートの結果は、非常に高い数値だと思う。 ・久米田高校を志望する中学生が多いのは、教員が日ごろから頑張っていることと、しっかりと広報活動を行っているからだとして評価している。</p>

府立久米田高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上	(1) 教員の授業力向上による幅広い質の授業の提供 (2) 共生推進教室の授業づくりを軸に授業改善に取り組む (3) 学力生活実態調査を活用し学力・学習習慣の定着を図る	(1) 教員相互の授業見学等の機会を通じた教員同士での助言・支援および授業アンケート結果を踏まえ授業改善を進める。 (2) 共生推進教室生徒にも参加しやすく理解しやすい教材開発・授業計画を進める。 (3) 学力生活実態調査・全国模試を全員受験し結果データを個人・保護者面談等に有効に活用する。	(1) 「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」80%以上。(昨年度:73%) ・「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」85%以上。(昨年度:91.3%) (2) 共生推進教室生徒アンケートで、「授業はわかった」80%以上。 (3) 学力生活実態調査の学力結果(GTZ)をB3以上(昨年度:B3)	(1) 「進路実現に役立つ」78.7%(目標80%) 中期的な目標75%を初めて超えた。 ・「教え方を工夫している先生が多い」93.1%(目標85%) (2) 共生推進教室生徒アンケートで、「授業はわかった」100%。 (3) 第2回学力生活実態調査の学力結果(GTZ) 1年:B3(国B3・数B3・英B2) 2年:B3(国B3・数B2・英B3)
2 自主的な活動の推進	(1) 部活動の活性化 (2) 国際交流の活性化および地域と連携した事業への積極的な参画	(1) 新入生への部活動の紹介および活動しやすい環境づくり等を進め、部活動をより活性化させる。 (2) 地域の各種団体との連携を深め、地域のイベントや交流に積極的に生徒を派遣する。国際交流事業への参加生徒数の増大および関連団体と連携した交流校の受入れの推進。海外語学研修を実施する。	(1) 入部率70%以上。(昨年度:69%) (2) 学校教育自己診断「近くの学校や国際交流、ボランティア活動等の活動に参加する機会が多い」生徒回答30%以上(昨年度:33%) ・海外語学研参加数20名以上(昨年度:19名) ・海外の訪問団体の受け入れ2件以上(昨年度:3件)	(1) 入部率71.5%(昨年度69%) (2) 「国際交流、ボランティア活動等の活動に参加する機会」37.3%(目標30%) ・オーストラリア語学研修参加者23名(目標20名) ・海外の訪問団体の受入1件(10月インドネシア高校生との交流)(目標2件)
3 安全で安心な学校作り	(1) 教育相談体制の充実 (2) 規範意識、人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちの涵養 (3) 警察との連携	(1) 「相談室だより」や教育相談教員の紹介掲示などの情報提示を行い教育相談体制の周知を図る。 カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導に関する職員研修を実施する。 (2) 遅刻常習生徒への学年指導を強化する。 LGBTを含む人権教育の充実を図る。 教員の授業規律への意識改善を図る。 情報モラルを入学当初から学習させるため「社会と情報」を1年生で履修させるよう教育課程を改編する。 (3) 地元警察と協力して、登校指導を行い、自転車のマナー指導や防犯に対する意識を啓発する。	(1) 学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」65%以上(昨年度:62%) (2) 年間遅刻総数前年度比10%減(昨年度:4176件) ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」75%以上(昨年度76.2%) (3) 警察と合同で登校指導・防犯指導を行う。1年生対象の交通安全講習会を実施する	(1) 「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」66%(目標65%) 発達障がい理解のための職員研修を実施(9月) (2) 年間遅刻総数2591件(H30年度4176件/比40%減) ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」82.8%(目標75%) (3) 警察と合同で自転車施設啓発活動を実施(10月)、1年生対象交通安全講習会実施(4月)
4 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導	(1) 「キャリア教育」、「人権教育」および「志学」を包括的に展開 (2) 主体的に学習状況を把握し進路目標までのマイルストーンを描きながらアプローチできる進路指導 (3) 情報化・高齢化・グローバル化に対応し、多様性を身に付け主体的に生きていく力の育成 (4) 「共生推進教室」と一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させる (5) 大学進学実績(現役合格数)の向上を進める。	(1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有効に連携させる。「スケジュール手帳」を継続して使用する。1年次の自分の将来を語る1分間スピーチ、調べ学習を積極的に展開する。 (2) 卒業生やNPO久米田フレンドシップクラブによる進路説明会の実施。 (3) オーストラリア海外語学研修の参加数を増やすため参加費を縮減する。 英語の外部検定への挑戦を軸に生徒の英語運用能力の向上を図る。 (4) 社会の構成員としての知識・経験を身につけさせ、「共生推進教室3年生」の全員の進路実現をめざす。 (5) 分野別進路指導を充実させる。土曜講習・長期休業中の進学講習を実施する。 年2回学習合宿を実施する。 学力生活実態調査、全国模試で学力・学習実態把握、弱点克服を図る。	(1) 「スケジュール手帳」の継続使用。 1年の発表大会の継続実施 (2) 進路説明会の継続実施 ・学校教育自己診断「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」80%以上を維持する(昨年度:81.9%) (3) 海外語学研修参加数20名以上(昨年度:19名) ・CEFR A2以上相当取得者が40名以上在籍(昨年度:37名) (4) 全員の希望進路の達成(昨年度:達成) (5) 現浪のべ合格数で、国公立大学および難関私大(関関同立)20人以上、中堅私大(産近甲龍)70人以上、看護系20人以上、公務員等10人以上めざす。(昨年度:国公立大学および難関私大(関関同立)24人、中堅私大(産近甲龍)79人、看護系27人、公務員等29人)	(1) 「スケジュール手帳」使用 1年生1分間スピーチ(9月実施) プレゼン大会(12月実施) (2) NPO公開講座「先輩に聞く」公務員編(6月実施・22名参加) 病院編(12月実施・19名参加) 教員編(2月実施・16名参加) ・「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」84.8%(目標80%) (3) オーストラリア語学研修23名参加(目標20名) ・CEFR A2以上相当取得者57名(目標40名) (4) 3名全員内定 (5) 現浪のべ合格数で、国公・難関私大8人、中堅私大77人、看護系27人、公務員等27人 大学入試変更直前年というところで難関大学への受験者の減少という全国的な影響を反映し難関大学の合格者は減少したが、その他の目標は概ね達成した。
5 広報活動の充実	(1) 地元中学校との連携、および広報紙・学校説明会のより一層の充実 (2) インターネットを活用した教育活動の積極的な情報発信	(1) 地域イベントの参加等により本校生徒の活躍の可視化を図る。 学校説明会を充実させる。 (2) 学校ホームページの更新。校長ブログの創設により、タイムリーかつ分かりやすく本校の教育活動を配信する。	(1) 中学3年生対象第10月進路希望調査において希望倍率2.1以上(昨年度:2.44) (2) 学校教育自己診断:「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」保護者85%以上(昨年度:84.5%)	(1) 中学3年生対象10月進路希望調査において希望倍率2.37倍 (2) 「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」保護者86.9%(目標85%)
6 業務の効率化・整理による職員の仕事時間の削減	(1) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」を実効化するとともに最終退庁時刻の励行を進める。 (2) 安全衛生委員会等による校内業務の効率化・整理の検討	(1) 月間部活動計画の校内公開、校内放送や顧問への啓発による部活終了時刻の徹底を図る。 (2) 安全衛生委員会を開催し、情報共有の迅速化、紙資料準備の軽減、会議前の情報共有などの施策を進め業務の効率化を図る。	(1)(2) 前年度より職員の月平均時間外勤務時間を縮減(昨年度:28h43m)	(1) 月平均時間外勤務時間28h09m 80h以上のべ9人/内100h以上1人(昨年度28h43m、のべ10人/内5人) 完全下校時間を徹底させている。 (2) 職員は府の統合ICTメールを1日1回確認することとし、メールで情報を共有することで紙への印刷やポストインの時間を削減、情報共有の迅速化と業務の効率化を図った。